

リニアトンネル、名古屋市内で今春に掘削開始 JR東海

2024/03/05 17:51 日本経済新聞電子版 475文字

JR東海は5日、リニア中央新幹線の名古屋市内の工区の一部で、トンネル工事の周辺への影響を調べる「調査掘進」を今春から始めると発表した。夏ごろまでに同市中区の「名城非常口」から愛知県春日井市方向に約300メートル掘る。この結果を住民に説明したうえで本格的な掘削に移る。東京圏に続いて名古屋の都心部でもトンネル工事が具体化する。

トンネル掘削に関する環境保全計画書を沿線自治体に同日送付した。リニア名古屋駅と春日井市の「勝川非常口」を結ぶ「第一中京圏トンネル（名城工区）」約7.6キロメートルのうち、名城非常口以东の約5.8キロ区間が対象。シールドマシンを使い、深さ40メートル以上の「大深度地下」を掘る。施工期間は2026年3月まで。

JR東海はすでに今年1月に名古屋市内で沿線の住民向け説明会を計4回開催し、約360人が参加した。住民からは地表面や地下水に与える影響、振動などに関する質問が出され、同社から対策が説明されたという。

リニア中央新幹線に伴うシールドトンネル工事は東京圏で先行しており、23年9月には川崎市東百合丘工区で調査掘進が終了している。

【関連記事】

- ・静岡・川勝知事、リニア巡る掘削調査を条件付きで容認
- ・「大阪から東京」江戸時代なら2週間、リニアで1時間に

許諾番号30098048 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.